

### 3 主要農作物病害虫の発生状況と原因解析（平成23年確定）

#### 1) 普通作物

##### (1) 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
苗立枯病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：少	一部の育苗施設等で発生が見られた。	床土消毒や育苗管理が適正に行われたため、全般には少なかった。
葉いもち	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	7月中旬調査で一部に発生が見られたが、8月上旬調査では県全域で発生は少なかった。	6月中旬以降高温で経過し、発生に不適な条件だった。早植・普通植ともに発生は少なかった。
穂いもち	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	少ない発生であった。	葉いもちの発生が少なく、8月の気温が高く降水量も少なかったため、感染に不適な条件だった。
紋枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	早植栽培では7月は平年並の発生だった。8月上旬は発生がやや少なくなったものの、8月以降は再び発生が平年並に戻った。	6月中旬以降高温で経過し、発生に適した条件だったが、7月下旬は一転して低温となったため、一時発生が抑制された。しかし、8月以降再び高温になったため、発生が平年並となった。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：多	一部で育苗箱での発生量が多い地域があった。	種子消毒を実施しているが、本年の実施時期が低温だったため、消毒効果が不十分だった。
稲こうじ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	平年並の発生だった。	
もみ枯細菌病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		適切な種子消毒や育苗管理が行われた。
縞葉枯病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや多	県南部を中心に発生ほ場が多くみられ、一部で要防除水準を超えるほ場も見られた。一方、これまで発生が少なかった県中北部に、程度は軽いながら発生が拡大している。	4年前から県南部で発生が増加し、一部でヒメトビウンカの保毒虫率が高い地域が見られる。越冬前のヒメトビウンカの密度が高く、越冬場所となる再生稲での発病も多かった。本田でのヒメトビウンカの発生量も多かった。
黄萎病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや多	県中部の一部で発生程度の高いほ場がみられたが、県全体としては少なかった。	ツマグロヨコバイの箱施用剤防除が行われていない地域で発生程度の高いほ場が見られる。
ヒメトビウンカ	平年並	やや多	本田の飛込み時期は平年並。5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量はやや多。	6月下旬～7月前半の気温が高く、降水量も少ないまま推移したため、発生には好適な条件であった。
ツマグロヨコバイ	平年並	平年並	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は平年並。	7月後半に降水量が多く、発生にやや不適な条件であった。
セジロウンカ	平年並	やや少	予察灯における総誘殺数は少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査の発生量は少ない。	本県への飛来は少なかった。
トビロウンカ	平年並	少	予察灯における誘殺数は少ない。	本県への飛来は少なかった。
ニカメイガ	越冬世代成虫：平年並 第一世代成虫：平年並	第一世代： (心枯茎)： やや多(成虫)：やや少	フェロモントラップによる越冬世代成虫の発生量はやや少ない。7月中旬の心枯茎の発生株率はやや多く、8月下旬から9月上旬の白穂の発生株率は平年並。	越冬幼虫の寄生株率は平年並。
コブノメイガ	平年並	やや少	予察灯における誘殺数はやや少ない。	本県への飛来は少なかった。
イネミズゾウムシ	平年並	やや少	5月中旬の本田における発生量はやや少なかった。5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。	越冬世代成虫の越冬密度が低かったため、発生量は少なかった。
イネツトムシ(イチモンジセセリ)	平年並	県北中部：少 県南部：平年並	7月上・下旬の発生株率はやや少なく、8月上旬は平年並だった。	7月後半に降水量が多く、発生にやや不適な条件であった。
イナゴ類	平年並	平年並	8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は平年並であった。	
斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ)	平年並	やや多	7月中旬のイネ科牧草地での発生量はやや多く、中でもカスミカメムシ類は多かった。8月上旬の本田におけるすくい取り調査での発生量はやや多く、アカヒゲホソミドリカスミカメは平年並だったが、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメはやや多かった。	6月下旬～7月前半の気温が高く、降水量も少ないまま推移したため、発生には好適な条件であった。

(2) 表

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：少	小麦ほ場の一部で少発生が見られた。	4月の気温は平年並みで、降水量が少なかった。
赤かび病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：少	全体的に少ない発生であった。5月下旬の小麦ほ場でわずかに散見された程度だった。	登熟期間の降水量が少なく発生に不適な条件であった。
大麦縞萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	少ない発生であった。	二条大麦はⅢ型抵抗性品種に切り替わった。
小麦縞萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	平成20年頃から発生が見られるようになった。本年4月中旬調査では、調査ほ場460のうち23.3%のほ場で発生が見られた。また、県央部では程度の高いほ場が見られた。	品種ごとの需用や作付推進地域があるため、発生が多い地域でも抵抗性品種や大麦への作付転換が進んでいない。
大麦斑葉病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	少ない発生であった。	健全な種子が供給された。
小麦赤さび病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	少ない発生であった。	

(3) 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病		子実：平年並		8月上中旬、9月上中旬の気温が高く降水量も少ないまま推移したため、発生に不適な条件であった。
べと病		生育期：やや多 子実：少	8月中旬は少、9月上旬はやや多くなった。	7月後半と8月下旬に降水量が多く、発生に好適な条件であった。
コガネムシ類	平年並	やや多	一般的にやや多であったが、県北の予察灯で6月下旬～7月上旬にオオクロコガネ誘殺数が多くなった。	堆肥を利用する飼料作物が多い地域では、成虫が大豆に飛び込む機会が多い。
アブラムシ類		多	8月中旬は多く、9月上旬はやや多かった。	6月下旬～7月前半の気温が高く、降水量も少ないまま推移したため、発生には好適な条件であった。
ダイズサヤタマバシロイチモジマダラメイガ		子実：少		
マメシクイガ		子実：やや少		
吸実性カメムシ類	平年並	生育期：やや多 子実：平年並	ほ場での発生量はやや多。	ほ場では主にホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシが観察された。
ハスモンヨトウ	やや早	多	幼虫の発生ほ場率は8月中旬、9月上旬とも高かった。	7月末の台風の影響で平年より飛来が早く、その後8月上中旬の気温が高く降水量も少ないまま推移したため、発生に好適な条件であった。
フタスジヒメハムシ	平年並	生育期：平年並 子実：平年並	発生量は、8月中旬はやや少、9月上旬は平年並であった。	7月後半は降水量が多く発生に不適であったが、その後8月上中旬は気温が高く降水量も少ないまま推移したため、発生に好適な条件となった。

## 2) 野菜

(1) いちご (親株・育苗床：平成23年6～9月 本ば：平成23年10月～平成24年5月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：やや早 前年：並	平年：やや多 前年：並	8月、9月は多い発生となり、それ以降もやや多い発生となった。	夏季高温のため、多かん水等により発生が増加した。
萎黄病	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：やや多 前年：並	9月までは少ない発生であったが、10月以降は多い発生となった。	夏季高温のため、発生に好適な条件であった。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	育苗期から11月までは少ない発生であったが、12月以降はやや多い～多い発生となった。	冬から翌春にかけて、降水量の多い月が多く、発生に好適な条件であった。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	育苗期から11月まではやや少ない～平年並の発生であったが、12月以降はやや多い発生となった。	夏季高温のため、親株から育苗期は発生があまり見られなかったが、気温の低下とともに発生が見られるようになった。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや多	親株、育苗期間を通してやや多い発生であった。11月に多発生となったが、1月には平年並みとなった。3月には再び多発生となった。	本年は5月ごろから有翅アブラムシの個体数が多く、7～9月に気温が高かったため、多い状態が継続した。本ばでは、11月に多発生となったが、外部からの飛び込みが多かったためと考えられる。
ハダニ類	平年：並	平年：多	親株、育苗期間を通してやや多い発生であった。定植後も常に多発生であった。	親株から育苗の時期に気温が高く、降水量が少なかったため、発生に好適な条件であった。薬剤感受性低下により防除が困難であったことも、多発の一因と考えられる。
コナジラミ類	平年：並	平年：やや少 前年：少	親株、育苗期間、本ば期間を通してやや少ない発生であった。	ラノーテープの普及で、オンシツコナジラミの発生が抑制されている。

## (2) トマト (夏秋：平成23年6～9月 冬春：平成23年10月～平成24年5月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	6月以降の気温高く、7月、8月の降水量は多く発生好適条件であったが、適切な防除により発生が抑えられた。
灰色かび病	平年：やや早 前年：やや早	平年：やや多 前年：並	6、7月はやや多い発生であったが、8月には平年並の発生となった。また、12月以降は多い発生であった。	6月、7月の日照不足等により平年に比べ、発生時期は早かったが、7月以降日照時間も多くなり平年並の発生に落ち着いた。しかし、11月の多雨の影響により、発生が増加し、以降多発生の状態が継続した。
葉かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	8月にやや多い発生であったが、全般には少ない発生であった。	耐病性品種が中心に作付けされているが、一部耐病性品種で発生した。
モザイク病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。一部ほ場でトマトモザイクウイルス (ToMV) 新系統によるえそ症状発生株が散見された。	
黄化葉巻病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	一部県南ほ場で発生が確認されたが、一般的には平年並の発生であった。	発病株がハウス内に残っているほ場があるが、媒介虫の発生は少なく、それ以上発病が拡大しなかった。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	一般的に平年並の発生であった。	ハウス外部からの飛び込みに起因した発生が散見された。
コナジラミ類	平年：やや遅	平年：やや少	7月まではやや少なく、8月から12月までは平年並みの発生であった。1月以降は再びやや少なく推移した。	発生量の増加が例年よりもやや遅かった。一方で、台風による強風の後に、天窓からの侵入と考えられる施設内での発生が多くなったとの報告があった。
ハモグリバエ類	平年：並	平年：並	6月にやや多く、8月は平年並みの発生であったが、一般的にやや少から少発生であった。	ハウス外部からの飛び込みに起因した発生が散見された。

## (3) なす

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	7月まではやや多い発生であったが、8月以降は平年並の発生となった。	やや軟弱に生育したため7月はやや多い発生であったが、その後適切な防除により平年並の発生に抑えられた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	一般的に少ない発生であった。	6月、7月の日照不足等もあったが、梅雨明けも早かったため全体的に発生は少なかった。
半身萎凋病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。
青枯病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	生育前半は少発生であったが、8月以降発生が多くなった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているが、6月以降気温が高め、7月以降降水量多く推移し、梅雨明けも早かったため、発病好適条件になった。
ハダニ類	平年：並	平年：やや多	一般的にやや多い発生であった。	夏季の気温が高く、台風による降雨はあったものの日照時間も多めに推移したため、発生に好適な条件であった。薬剤感受性の低下も懸念される。
アブラムシ類	平年：並	平年：多	一般的にやや多い発生であった。	夏季の気温が高く、台風による降雨はあったものの日照時間も多めに推移したため、発生に好適な条件であった。
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	一般的にやや多い発生であった。	夏季の気温が高く、台風による降雨はあったものの日照時間も多めに推移したため、発生に好適な条件であった。

## (4) きゅうり (夏秋：平成23年6～9月 冬春：平成23年10月～平成24年5月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	日照不足となった月もあったが、全体的に平年に比べ、少ない発生であった。
べと病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	作の終わりとなる6月は多い発生となったが、一般的にやや少ない発生であった。	6月以降の気温高く、7月、8月の降水量は多く発生好適条件であったが、適切な防除により発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	一般的に平年並の発生であった。	日照不足となった月もあったが、適切な防除により発生が抑えられた。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	一般的に平年並の発生であった。	6月、7月の日照不足等もあったが、梅雨明けも早かったため全体的に平年並の発生であった。
疫病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	6月、7月の日照不足等もあったが、梅雨明けも早かったため全体的に少ない発生であった。
ハモグリバエ類	平年：並	平年：並	6、7月は少ない発生であったが、9月には多発生となった。以降は少なく推移した。	一時的な増加は見られたが、ハウスへの外部からの飛び込みに由来すると考えられる。
アザミウマ類	平年：並	平年：多	一般的にやや多から多い発生で推移した。	夏季高温のため、発生に好適な条件であった。また、薬剤感受性の低下により、有効な薬剤が少ないことも多発要因の一つと考えられる。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	5月、6月とやや多く、8月にも多発生となったが、9月以降は少なく推移した。	5月は降水量が少なく、野外の有翅アブラムシ類の飛来が増加したのに併せ、発生が増加した。ただし、アザミウマ類やコナジラミ類の防除の中で、発生は抑えられたと考えられた。

## (5) なら

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
乾腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	無病地への作付けが行われた。
白斑葉枯病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	9月までは少ない発生であったが、10月以降は平年並～多い発生であった。	7月から9月まで平年より気温が高く推移し、10月は気温が低くなり、9月以降降水量が多い月が多かった。
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	7月から9月まで平年より気温が高く推移し、8月の少雨により発生が少なくなった。
株腐細菌病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。
ネグニ類	平年：並	平年：多	10月は平年並みであったが、一般的に多い発生であった。	厳寒期に施設が被覆された後は薬剤による防除が困難となり、有効な防除方法が無いことが多発生に繋がった。

## (6) ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	7月から9月まで平年より気温が高く推移し、8月の少雨により発生が少なくなった。
べと病	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：少 前年：並	9月に一時発生が多くなったが、一般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、7月から9月まで平年より気温が高く推移し発生が少なくなった。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であった。	7月から9月の平均気温が発病適温（24から27℃）で推移したが、適期防除が行われた。
萎縮病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	
アブラムシ類	平年：並	平年：やや少	7、8、10月は少なく、9月はやや多い発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年並	平年：やや多	7月は多く、8～9月はやや多く10月は平年並みの発生であった。	夏季に高温で、台風による降水はあったものの日照時間は長かったため、発生に好適な条件であった。
ハモグリバエ類	平年並	平年：やや多	8月は少なかったが、全体的にやや多い発生であった。	夏季に高温で、台風による降水はあったものの日照時間は長かったため、発生に好適な条件であった。
ネギコガ	平年並	少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (7) たまねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	5月は平年に比べ、日照時間少なく、降水量多かったが、適期防除が行われた。
べと病	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	5月は平年に比べ、日照時間少なく、降水量多かったが、適期防除が行われた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	5月は平年に比べ、日照時間少なく、降水量多かったが、適期防除が行われた。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	5月は平年に比べ、日照時間少なく、降水量多かったが、適期防除が行われた。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや多	一般的にやや多い発生であった。	4～5月上旬の降水量が少なく、有翅アブラムシ類の飛来が多かった。
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	一般的にやや多い発生であった。	4～5月上旬の降水量が少なく、有翅アブラムシ類の飛来が多かった。

## (8) はくさい

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白斑病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	少ない～平年並の発生であった。	
べと病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温高く、日照時間が多かったため、発生が少なかった。
黒斑病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温高く、日照時間が多かったため、発生が少なかった。
軟腐病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	
モザイク病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	10月はアブラムシ類の発生が多かったが、適切に防除された。

## (9) キャベツ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒腐病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。
菌核病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。

## (10) あぶらな科野菜 (だいこん)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナガ	平年：並	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (11) レタス

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高く、日照時間も多かったため、発生が少なかった。
菌核病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高く、日照時間も多かったため、発生が少なかった。
軟腐病	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	
アブラムシ類	平年並	少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (12) 野菜共通 (さといも、だいこん)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ハスモンヨトウ	平年：やや早	平年：やや多	フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺数は7月と9月に平年より多かった。いちご、はくさい、キャベツ、レタスでやや多く見られた。	夏季に高温で発生に好適な条件であった。また、台風後の飛来も多く見られた。
オオタバコガ	平年：やや早	平年：やや多	フェロモントラップでは、9～10月に多く誘殺されたほか、県南の一部地域では多い発生で推移した。また、いちごやトマト、なす等の作物でも、発生が見られた。	夏季に高温で降水量が少なかったため、発生に好適な条件であった。

## 3) 果樹

## (1) なし

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：並 前年：やや遅	平年：並 前年：並	全般に発生は少なかった。	県内の主力品種は、耐病性のある幸水、豊水が作付けされている。
黒星病	平年：やや早 前年：並	平年：並 前年：並	5月から7月にかけ一般的には発生時期が早く、平年に比べ広域で発生がみられた。6～7月の発生が多かったが、一般的に平年並の発生であった。	感受性が高くなる4月上中旬の気温が平年より高かったため、発生時期が早かった。5月は平年より降水量多く、日照時間が少なかったため、生育前半で発生が多くなった。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	発生は少なかった。	4月の降水量は平年に比べ少なく、産地のビャクシン類も少なく、飛散胞子量が少なかった。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	一般的に平年並の発生であった。	
ハダニ類	平年：やや遅	平年：並	一般的に平年並の発生であったが、8月上旬の調査では一分ほ場で多くみられた。	台風による降水はあったが、晴天が多く気温も高かったため、7月以降増殖に好適であった。
ハマキムシ類幼虫	平年：並	平年：やや少	一般的にやや少ない発生であったが、8月に一部のほ場で発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (2) ぶどう

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
晩腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	6月以降の気温高く、7月、8月の降水量は多く発生好適条件であったが、適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：並 前年：やや早	平年：やや多 前年：並	7月上旬調査から発生が見られたが、8月上旬調査で平年より多い発生となった。	7月下旬から8月上旬にかけての低温、日照不足、多雨により発病し、7月中旬以降に散布できる薬剤が少なく、発生が多くなった。
黒とう病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	6月に一時期発生がみられたが、その後は平年に比べ少ない発生であった。	6月以降の気温高く、7月、8月の降水量は多く発生好適条件であったが、適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類	平年：少	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：少	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

### (3) りんご

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	発生時期は平年並であったが、6月以降平年より多い発生であった。	6月以降平年に比べ気温が高めに推移し、降水量は7月前半は少なく、後半は多くなったため。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	発生は少なかった。	4月の降水量は平年に比べ少なく、産地のバクシン類も少なく、飛散胞子量が少なかった。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	一般的に少ない発生であった。	7月、8月の降水量は多かったものの、6月以降気温が高めに推移したため。
輪紋病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	6月以降の気温高く、7月、8月の降水量は多く発生好適条件であったが、適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：やや遅	平年：並	一般的に平年並の発生であった。	
アブラムシ類	平年：並	平年：やや多	一般的に平年並みの発生であったが、一部のほ場で多い発生が見られた。	気温が高めに推移したため、発生に好適であった。
ハマキムシ類幼虫	平年：少	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

### (4) 果樹共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カメムシ類	平年：並	平年：並	フェロモントラップによる誘殺数は、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシともに少～やや少で推移した。 果樹カメムシ類の果樹への飛来は、5月ごろにクサギカメムシの飛来が報告された園もあったが、全体として平年よりも少なかった。 水銀灯への誘殺数はやや少なかった。	越冬個体数は少なく、その後も大きな増加は認められなかった。スギやヒノキの球果収量は多かった。
ナシヒメシクイ	平年：並	平年：並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並み～やや多く推移した。発生時期はやや早く、発生ピークが長く現れた。那須烏山の調査地では、4月中～下旬と6月下旬～7月上旬の誘殺が多かった。 なしでは、一部のほ場で被害がみられたが、適切な防除が行われた。	昨年最終世代に由来する越冬個体数が多かったものと推察される。夏以降は、台風などの影響による断続的な悪天候の影響か、個体数の増加が停止した。
モモシクイガ	平年：並	平年：並	一般的に少ない発生であった。	
リンゴコカクモンハマキ	平年：並	平年：並	一般的に少ない発生であった。県中部のなし園で新梢の被害が認められた。	

### 4) 花き

#### (1) きく

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：やや少 前年：並	11月までは一般的に少ない発生であったが、12月、1月、3月はやや多い～多い発生であった。	7月から9月まで平年より気温が高く推移し発生が少なくなったが、冬から翌春にかけて、降水量の多い月が多く、発生が増加した。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	4～5月、9～10月、12月以降に多～並の発生が見られた。	野外個体数が多い時期に、飛び込みによる発生が散見された。ただし12月以降にも散見されており、薬剤感受性の低下も懸念される。
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	5～7月はやや多から多い発生であったが、それ以降は平年並みで推移し、11月以降は再びやや多い発生となった。	薬剤抵抗性の発達も懸念される。
ハダニ類	平年：並	平年：多	一般的に多い発生であった。 昨年から引き続き発生が多い。	夏季に高温で発生に好適な条件であった。また、常にハウス内で苗～収穫期まで連続して栽培されているため、発生も連続した。薬剤抵抗性の発達も懸念される。